

## 「ワンヘルスに関する連携シンポジウム —薬剤耐性 (AMR) 対策—」開催される

平成 29 年 11 月 27 日 (月), 厚生労働省主催, 第 6 回 日本獣医師会 - 日本医師会による連携シンポジウム「ワンヘルスに関する連携シンポジウム —薬剤耐性 (AMR) 対策—」が, 日本医師会大講堂において 359 名の参加者を得て盛大に開催された。

まず, 本シンポジウムの主催である厚生労働省から, 加藤勝信厚生労働大臣代理として福田祐典健康局長の挨拶が述べられ, 続いて齋藤 健農林水産大臣代理として池田一樹消費・安全局長から挨拶が述べられた後, 横倉義武日本医師会会長代理として釜薙 敏常任理事の挨拶が述べられ, 日本獣医師会 藏内勇夫会長から大要次のとおり開会挨拶が述べられた。

### 【公益社団法人 日本獣医師会 藏内勇夫会長挨拶】

本日, 厚生労働省の主催により, 農林水産省, 日本医師会及び日本獣医師会の共催の下, 「ワンヘルスに関する連携シンポジウム」が, 厚生労働省, 農林水産省, 日本医師会からご出席をいただき, 多数の参加者の方々をお迎えして開会されることに対し心から感謝申し上げます。

近年, 人と動物の健康及び環境の保全に係る関係者が連携して感染症対策等に取組むべきであるとする “One Health” の考え方が世界的に広がっています。日本獣医師会では, 以前から “One Health” の概念に注目し, 「動物と人の健康は一つ. そして, それは地球の願い。」を平成 22 年度に獣医師会活動指針として採択いたしました。さらに, 平成 25 年 11 月には, 日本医師会との間で, “One Health” に基づく学術協力の推進に関する協定を締結し, その後, 医師と獣医師の情報交換の場として, 5 度にわたり連携シンポジウムの開催等を実施してまいりました。

本シンポジウムは, 6 回目の連携シンポジウムとなるわけですが, このたびは, 厚生労働省にご支援をいただき, 現在医療, 獣医療の双方で抗菌剤の慎重使用が課題となっている薬剤耐性 (AMR) をテーマとして開催することといたしました。

さて, “One Health” に関しましては, 昨年 11 月に, 世界獣医師会, 世界医師会, 日本医師会及び日本獣医師会が連携し, 福岡県北九州市において「第 2 回 WVA-WMA “One Health” に関する国際会議」を開催いたしました。国際会議の成果として 4 者が調印した「福岡宣言」は, 今後の “One Health” 推進の礎となるものと,

関係者の間で高く評価されています。「福岡宣言」においては, 特に医師と獣医師の協力が重要なトピックとして, まず人と動物の共通感染症対策, 次に本日のテーマである薬剤耐性対応, さらに医学・獣医学教育の改善を取り上げ, 最後に健康で安全な社会を構築するためのすべての課題における協力を明言しています。

今後, “One Health” を実践するうえで, 薬剤耐性問題は乗り越えなければならない喫緊の課題の一つです。私は, この問題は, 医師と獣医師による連携した取組みが共通の課題解決にいかにか有効であるかを計る試金石になると考えています。その意味において, 本日のシンポジウムはわれわれにとって非常に重要な機会となります。薬剤耐性の問題を世界各国が重視し, WHO は「薬剤耐性に関するグローバルアクションプラン」を発表し, わが国においても同様にアクションプランが策定され, 成果指標の達成に向け, 行政をはじめ関係者が一丸となって必要な取組みを開始しています。

本日のシンポジウムが, 医療・獣医療関係者のみならず, 国民の方々も含めた薬剤耐性に関する情報共有の場となり, わが国における薬剤耐性対策がいつそう推進される契機になることを心から期待いたしまして, 私の挨拶といたします。

### 【講 演】

はじめに, 三宅邦明厚生労働省健康局結核感染症課長から「厚生労働省における AMR の取組み」として, 現在の One Health に関する背景や厚生労働省による AMR 対策に関する対応内容について基調講演が行われた。

続いて講演では, 田村 豊酪農学園大学動物薬教育研究センター教授が座長となり, 渡邊治雄国際医療福祉大学大学院教授から「薬剤耐性ワンヘルス動向調査年次報告」について, 関係省庁の協力のもとに組織された「薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会」の役割や報告内容等が講演された。

次に, 原田和記鳥取大学農学部准教授から「家庭飼育動物由来耐性菌の現状」について, 動物病院における抗菌剤使用の実態や家庭飼育動物由来の各種指標菌等の薬剤耐性分布調査結果, 獣医療分野で注目されている ESBL 産生菌等について講演が行われた。

続いて, 柳原克紀長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授から「医療における耐性菌の現状」について, 医療

現場において重要な注目すべき薬剤耐性菌，MRSA やMDRP，MDRAのほか，注目を集めているCRE等について講演が行われた。

休憩後，賀来満夫東北大学大学院医学系研究科教授が座長となり，遠藤裕子動物医薬品検査所検査第二部長から「動物分野における薬剤耐性への取り組み」について，抗菌剤に関するわが国の現状，薬剤耐性（AMR）対策アクションプランにおける動物分野の取り組み等について講演が行われた。

続いて，臼井 優酪農学園大学獣医学群准教授から「小動物診療施設におけるMRSAの疫学」について，獣医療分野におけるMRSAの分離状況，特に動物病院におけるMRSA院内感染の状況とその対策について講演が行われた。

最後に，大曲貴夫国立国際医療研究センター国際感染症センター長から「医療における薬剤耐性への取り組み」について，現在行われている薬剤耐性（AMR）の

教育啓発活動や，抗菌薬使用量，医療関連感染に関する動向調査・監視の状況，抗微生物薬の適正使用について講演が行われた。

各講演後には時間の許す限り質疑を行ったほか，すべての講演後には，講演者6人をパネラーとしてディスカッションが行われ，会場から出された質問に対して講演者が回答を行った。シンポジウムの最後にはとりまとめとして酒井健夫日本獣医師会副会長から，人と動物と環境の連携を考えていくうえでは情報の共有化が不可欠であり，今後は地方における獣医師会と医師会との連携を推進するとともに，AMR対策については世界獣医師会と世界医師会も大きなテーマとしているので海外での議論も進め，最終的には地球上の人と動物が共生できる社会を作っていただきたい旨が発言された。

最後に，磯貝達裕厚生労働省健康局結核感染症課感染症情報管理官による閉会挨拶が行われ，シンポジウムを終了した。



左から，福田祐典厚生労働省健康局長，池田一樹農林水産省消費・安全局長，釜苺 敏日本医師会常任理事，藏内勇夫日本獣医師会会長



藏内勇夫会長挨拶



三宅邦明氏  
(厚生労働省結核感染症課)



渡邊治雄氏  
(国際医療福祉大学)



原田和記氏  
(鳥取大学)



柳原克紀氏  
(長崎大学)



遠藤裕子氏  
(動物医薬品検査所)



臼井 優氏  
(酪農学園大学)



大曲貴夫氏  
(国立国際医療研究センター)



座長（左から，田村 豊氏（酪農学園大学），賀来満夫氏（東北大学）



ディスカッション



閉会挨拶(磯貝達裕氏  
(厚生労働省結核感染症課))